

化石の発掘現場

むかわ竜は、北海道むかわ町穂別で発見され、2013年と2014年に発掘された。

© 写真提供 / むかわ町穂別博物館



図5

むかわ竜の全身復元骨格

2019年4月にメディア関係者に公開された、むかわ竜の全身復元骨格。

Data

全長●約8m

食性●植物食

分類●鳥盤類 鳥脚類 ハドロサウルス科

時代●白亜紀後期

化石の産出地●北海道むかわ町

地層●蝦夷層群函淵層

年齢●9歳以上

Part 2

日本最大級の全身骨格!

発見から15年以上の歳月を経て、いよいよ全貌が明らかになったむかわ竜。全長8mのこの恐竜は、全身の8割が保存されていた。国内外から注目される「むかわ竜のスゴさ」を改めて確認しておこう。

この夏、国立科学博物館で企画展「恐竜博2019」が開催されます。この企画展の主役のひとつが「むかわ竜」です(図5)。

むかわ竜は、2003年に北海道むかわ町穂別で尾の骨の一部が発見され、2013年と2014年に行われた大規模発掘で、残りの部分の化石が回収されました(図6)。

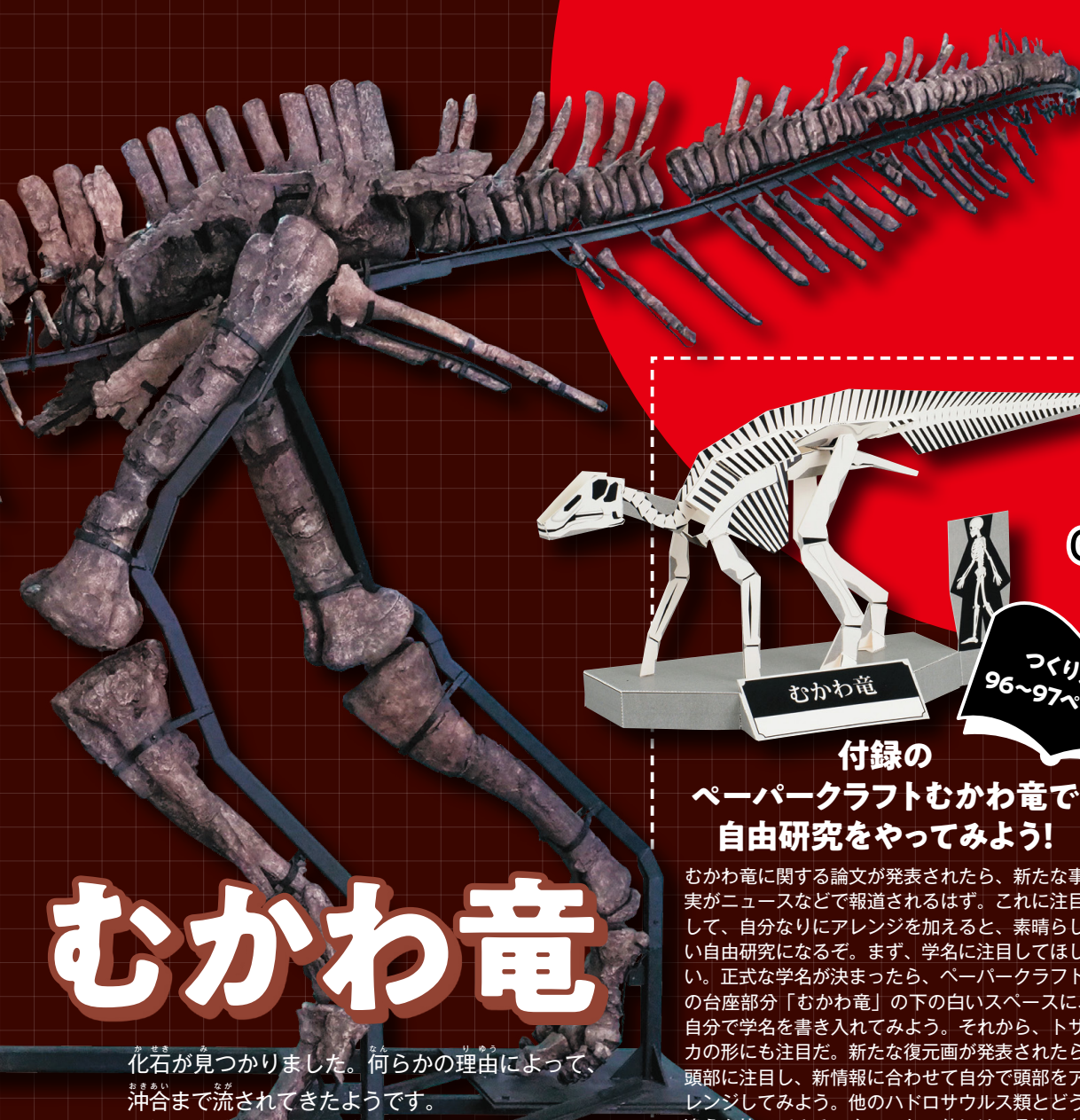
その結果、全身の8割を超える化石が残っていたことが明らかになりました。高い保存率の「全身骨格」を持つ「日本産」の恐竜化石としては、ニッポノサウルス、フクイペナトールに次ぐ3例目になります。

ただし、過去の2つの全身骨格と比較すると、

むかわ竜は大きさが異なります。実は、ニッポノサウルスは全長4mほどで、フクイペナトールは全長2.5mほどでした。この2種に対して、むかわ竜は全長8mの大型恐竜なのです。

そもそも、化石は小型のものほど全身が残りにやすく、大型のものほど全身が残りにくいという傾向があります。そのため、全長8mで8割の保存率を誇るむかわ竜は、世界的に見ても、とても貴重であるといえます。

さらに、むかわ竜はその化石が見つかった地層も注目されています。恐竜は陸の動物ですから、ほとんどの場合、陸でできた地層から化石が産出します。しかし、むかわ竜は海でできた地層から



むかわ竜

化石が見つかりました。何らかの理由によって、沖合まで流されてきたようです。

海の地層は、陸の地層と比べると「いつできたのか」という時代（年代）がはるかに特定しやすいという特徴があります。つまり、むかわ竜は「いつ生きていたのか」ということが、把握しやすいのです。

このことは、むかわ竜の近縁種をめぐる進化など、さまざまな謎の解明に大いに役立つと期待されています。

むかわ竜の恐竜としてのすごさ

むかわ竜は、「ハドロサウルス科」というグループに属しています。

付録の

ペーパークラフトむかわ竜で自由研究をやってみよう!

むかわ竜に関する論文が発表されたら、新たな事実がニュースなどで報道されるはず。これに注目して、自分なりにアレンジを加えると、素晴らしい自由研究になるぞ。まず、学名に注目してほしい。正式な学名が決まったら、ペーパークラフトの台座部分「むかわ竜」の下の白いスペースに、自分で学名を書き入れてみよう。それから、トサカの形にも注目だ。新たな復元画が発表されたら頭部に注目し、新情報に合わせて自分で頭部をアレンジしてみよう。他のハドロサウルス類とどう違うか比べてみるのもいいね。他には、骨格に色をつけるのもオススメだ。本来は「白色」であるはずの骨がなぜ黒っぽくなっているのかも考えてみよう。もし工作が得意なら、ぜひ「ジオラマづくり」にもチャレンジしてほしい。むかわ竜の生態や生きていた当時の環境を調べて、景観を自作してみよう。最後に写真を撮影すれば、最強の自由研究が完成するぞ!

そもそも恐竜類は、「竜盤類」と「鳥盤類」の2つのグループに分けることができます（次ページ図7）。竜盤類はトカゲのものに似た骨盤（腰の骨）を持つ恐竜たちで、ティラノサウルス（*Tyrannosaurus*）のような肉食恐竜や、全長20mを超える巨大な植物食恐竜たちが属しています。鳥類も竜盤類に分類されます。